

自己評価報告書

2020年度

自 2020年4月 1日

至 2021年3月31日

専修学校 厚生労働大臣指定・製菓衛生師養成校
日本菓子専門学校

自己評価表

1. 教育理念 「菓子業界の期待に応える人材づくり」

1960年、菓子業界の要望によって日本菓子専門学校は誕生し、以降豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成によって業界の発展に貢献してきました。

本校は現場を幅広く知る専任教師と、第一線で活躍するオーナーシェフをはじめとした講師がそれぞれの経験と見識をもって、菓子づくりやパンづくりの楽しさ、現場に即したプロ意識、さらに人間教育や社会教育までを実践しています。

多様化する菓子業界の中で常に先を見続けられるのは、歴史と伝統に裏付けられた「新しい」があるからです。1998年に製パン技術学科を、2016年にはより高度で専門的な技術の習得を目指すハイテクナカル科を開設するなど時代に合わせてカリキュラムを更新しながら、夢をもって入学した学生を、製菓・製パン業界へ温かく送り出しています。

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
・ 学校の職業教育としての特色は適正かどうか	④	3	2	1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・ 保護者等に周知されているか	4	③	2	1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

- ・教育理念や人材育成、将来構想など学生・入学検討者を含め更なる周知が必要である。
- ・IT化などの新しい授業形態の模索。
- ・更なる社会経済、業界のニーズを踏まえ、学校教育の方向性を考える事が必要である。
- ・お菓子づくりだけでなく、経営的視点でみる菓子製造業を理解する。
- ・業界で活躍するために必要な心構えを徹底して教育する必要がある。
- ・若い人向けのPRをする。基礎知識・技術を第一に考え、製菓のデザインにも力を入れていく。
- ・「プロフェッショナルを育成する」に付加価値として「〇〇なプロフェッショナル」の育成人材像を共有する必要がある。プロフェッショナルの育成は専修学校が絶対にやらなければいけない最低限の目標だと思うので、本校ならではの、他校に勝る人材像を設定する必要がある。

②今後の改善策

- ・社会の未来情勢を模索し、時代に則した構想を考える。
- ・更に新しい機器の導入、使用者への教育。
- ・製菓・製パン業界との連携はもちろん、それ以外でも関係の深い分野との連携を目指す。
- ・業界、地域とのコミュニケーションを取り、ニーズに応えられるように情報を得る。
- ・原価、生産効率に対する売り上げなどを意識した実習内容なども考える。
- ・職員一人ひとりが社会人として、業界の先輩としての自覚を持ち、学生に対応する。
- ・AIには決して出来ないニーズある人材育成、レベルアップ。
- ・SNSの利用。半年のみの製菓コース等の検討。

③その他

- ・コロナ禍においての新しい授業形態の確立を推進する。

総合平均値	3.4
-------	-----

2. 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 教育理念に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・ 教務・財務等の組織整備を役員会などの意思決定システムが整備されているか	④	3	2	1
・ 業界や地域社会等に対する法令や規則を守る体制が整備されているか	4	③	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

①課題

・ 情報システム化については、募集活動においてクラウド管理されており、共有化も出来ているが、成績・出欠席管理等においては今後の改善が必要である。 ・ 教職員間の連携を強化する。 ・ オンラインやペーパーレスの推進。 ・ 能力による人事を配置し、適正な人事を行う事で効率の良い学校運営を目指す。 ・ 教育理念も念頭におく必要がある。 ・ 一人ひとり業務に対しての意識を共有し、熱意に差がない様に努める。 ・ システム(パソコン等)の効率化。(セキュリティ面を含め)

②今後の改善策

- ・ 現在の出欠席管理システムを再検討し、専門家を交えてのクラウド管理化の推進。
- ・ 教育局、事務局との連携強化。
- ・ 紙ではなくメール等の利用。リモートの利用による講習の開催。
- ・ 運営方針の再設定と共有、事業計画の明確化、人事評価制度の構築、業務改善。
- ・ 規定などをデジタル化し、勤務状況などいつでも見られる様にする。

③その他

- ・ 新しいIT技術やシステムの導入を図る。
- ・ PCの台数を増やし、紙ベースの業務の内、社内ネットワークシステムをつくり、それを活用してペーパーレス化を目指す。

総合平均値	3.6
-------	-----

3. 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 教育理念等に沿った教育課程の履修規定・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科が編成されているか	④	3	2	1
・ 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・ 教育を行う上で教務・財務等の組織整備の意思決定システム(理事会や幹部会等)は整備されているか	④	3	2	1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどの経営が行われているか	4	③	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ・現在でも関連分野の企業・業界団体との連携を進めているが、より実践的な職業教育を進めカリキュラム等の改善を進める。
- ・教員の技術向上を目的とした研修を更に進める。
- ・実践的な職業教育をいかにカリキュラムに組み込むかの検討。
- ・満足度の高い授業内容を実施出来ているが、外部(産学連携等)との関わりを更に進める。
- ・学生の自主的な力を伸ばせる教育活動を導入する。

②今後の改善策

- ・関連分野や外部関係者の意見を取り入れ、意思疎通を図り、より良いカリキュラムを目指す。
- ・関連分野・企業等との話し合いを深め時代に即した教育内容作りを進める。
- ・異分野での研修、個人活動の啓蒙を図る。
- ・教員の技術向上を目的とした研修数を増やす。(入社して在職年数のなるべく早いうちに受講し、学生への対応の仕方など、新入社員が早くに学ぶべき内容を身につける。)
- ・品評会だけでなく、他店への研修も増やす。
- ・業界や業者から積極的に講習会の案内をいただける様に声を掛け、交代で参加出来る環境等を整備する。
- ・販売実習や受け入れ先が見つければ、短期の現場研修を積極的にさせるなど、外部との関わりを広げていく。

③その他

- ・職員の能力開発・技能向上に対する研修等の取り組みを活発に行い、職員の自主的な能力向上に努める。
- ・実習製品内容の見直し。(時代に則した製品なども取り入れ、学生にとってより魅力的な実習内容の検討。)

総合平均値	3.6
-------	-----

4. 学習成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

①課題

- ・ 卒業生の活躍等体系的に情報収集する体制の整備。
- ・ 卒業直後の離職率が高く、キャリア形成出来ていない。
- ・ 同窓会を開催。集合できる時間、金銭的余裕のない、卒業後間もない卒業生(例えば卒業後10年以内として)のキャリア研修のフォロー体制の整備。
- ・ 留学生の卒業後のサポート。(日本での就職等)

②今後の改善策

- ・ 定期的かつ効率的な情報収集ツールの整備。
- ・ 求人企業・業界団体・同窓会等と綿密な連携を取り卒業生の活動状況を把握するよう努める。
- ・ 不足している部分へのフォロー教育の実現を図る。
- ・ 卒業学年ごと(同期会)の連絡網の強化。
- ・ 在学中における学生、社会人としての指導の強化。
- ・ もっと視野を広げて“今”に合うよう変えていく。

③その他

- ・ 就職率はほぼ100%で推移しており、資格取得についても高い合格率を維持している。卒業生の社会的な活躍はコンテスト等の受賞確認も行っている。活躍している卒業生を講師に招くなど教育活動の改善に努めている。
- ・ 活躍する卒業生を積極的に在校生に周知させる事で、憧れの存在となり、学習のモチベーションアップを図る。
- ・ 卒業生には、毎年当校主催の講習会を実施。
- ・ 同期会、各県支部活動においても学校としてバックアップを行っている。

総合平均値

3.6

5. 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか (校友会奨学金等)	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか(保護者会等)	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取組が行われているか(高校での実習など)	④	3	2	1

①課題

- ・経済的な支援策の拡充。
- ・学生支援体制は、概ね整っているが、学生に対しての支援内容の周知がより必要。
- ・社会人へのニーズの発掘を考える。
- ・学生に対して、心身共に管理出来る体制。
- ・外部(出張)授業などに力を入れて、学校の認知度を上げる。

②今後の改善策

- ・学生個々と面接等を行いより学生の生活環境を把握し、適した支援を行う。
- ・各学生のニーズにあった奨学金制度の充実。
- ・カウンセラーなど外部の目線での相談役。

③その他

- ・学生個々にはクラス担任から生活面や健康面などのケアも行い、十分な対応が出来ていると思われる。
- ・学生傷害保険も掛けている。
- ・校外授業に掛かる個々の費用についても補助金の支給を行っている。

総合平均値

3.5

6. 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

- ・ 機器や器具の老朽化等に対する今後の対応が必要。
- ・ インターンシップ数不足。
- ・ 学生、教職員の防災・災害に対しての意識の再確認。
- ・ 大規模災害等発生時の、学生および周辺住民等外部者が、校内にとどまる場合の教職員の対応について具体的に検討する必要がある。

②今後の改善策

- ・ 販売実習を定期的に行う。
- ・ 器具やロッカー等、随時新しい物に入れ替える。

③その他

- ・ ホテルのインターンシップの希望者に対し、学生保険を掛け、夏期休暇を利用して実施。
- ・ 施設設備等、防災に関しては法令に基づいた点検を実施し、避難訓練等学生を含めた防災訓練も毎年実施し、防災備品(水・食料等)も備蓄している。
- ・ インターンシップの実施できる時期・期間を広げ参加学生を増やし就職活動に積極的に繋げる。
- ・ フランス・ドイツ姉妹校への研修旅行は、卒業後、各科とも任意で実施している。

総合平均値

3.7

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

- ・ 学生募集活動は、概ね適正に行われているが、まだまだ学校周知が不足している。
- ・ 材料費等の高騰に対する更なる対応策。
- ・ 入学検討者(高校生等)に伝わりやすい学生募集活動方法の見極めが必要。
- ・ オープンキャンパス参加者を増やすのではなく、一見、リピーター、ファンへと成長させていく方法を検討する。
- ・ AOエントリーのweb化など手軽さ、便利さを検討する。

②今後の改善策

- ・ 従来のオープンキャンパスや校内説明会、進学相談会、高校訪問に加え、オンラインによる説明会も今以上に強化し、入学検討者に情報収集の機会を更に増やし、募集活動に努める。
- ・ 学生募集に対して各科の相違点・特徴の明確化を計り、高校生等に周知して出願者増加に努める。
- ・ コストカットだけでは吸収しきれない部分の改善を図る。
- ・ 教員へのファン化。学生おもてなしでリピート化。一見特化の短時間体験。
- ・ 学費減免の出来る特典をもっと増やす。
- ・ 学習成果の可視化、認知拡大。
- ・ web出願を実施。入試形態差別化。

③その他

- ・ 学生募集活動については、オープンキャンパスや校内説明会等広報活動を通して成果を伝えており、教育内容から見ても適正であるが、学費はもう少し高くても良い。
- ・ 進路と学校選びについて、生徒本人の身になって考え、アドバイスをしている。
- ・ 体験生にもっと楽しいと感じてもらえるよう努める。
- ・ 学納金について、消費税増税に合わせて値上げをしたが、今後の社会情勢や物価変動によって、さらに検討も必要。

総合平均値

3.7

8. 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1

①課題

- ・ 学生等の個人情報に対する保護の強化。
- ・ 個人情報管理への意識が個々によって違う。

②今後の改善策

- ・ 各情報へのアクセス者の確認・把握出来るシステムを整備し、個人情報管理の意識の統一を図る。

③その他

- ・ 法令に遵守し、適正に運営している。個人情報保護に関しても、クラウド管理で使用者を限定しており、使用目的意外には利用しないよう徹底をしている。

総合平均値

4.0

9. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか(通信教育や講習会) ・ 学生へのボランティア活動の情報提供	4	③	2	1

①課題

- ・ 包括的な情報提供体制の整備。
- ・ 地域の各団体等との地域貢献活動は行っているがより学校側で出来ることを周知させる事が必要。
- ・ 近隣清掃は行っているが、もう少しの区域拡大を検討。
- ・ 知名度の向上を図る。
- ・ 災害時の避難場所、学園祭は行っているが、学生のボランティア活動、公開講座、教育訓練は今後検討していく。
- ・ 周辺住民の方を対象とした地域貢献を検討していく。

②今後の改善策

- ・ 授業に支障が出ない範囲で協力・支援を行える様努める。
- ・ 学校で実施した貢献活動をHP・SNSで一般に周知し積極的に進める。
- ・ 学園祭や広報活動での知名度向上以外の模索。
- ・ 製品販売やパフォーマンスを実施。
- ・ 講習会等の募集も目的を持って力を入れる。

③その他

- ・ 実習室の貸し出しや地域イベントの協力も実施しており、近隣の清掃活動も行っている。
- ・ 毎年学園祭を開催して地域の多くの方々に楽しんでいただいている。
- ・ 最寄り駅である二子玉川駅とのコラボを検討していく。
- ・ 小・中学校へ打診し、小・中学校向けのお菓子教室の開催。
- ・ ものづくりマイスターとして、小・中・高校への授業を実施している。

総合平均値

3.0

10. 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・ 外国語での情報発信。
- ・ 留学生の増加に伴い、受入れ対策・在籍管理等の業務が増大している。
- ・ 留学生の就職率を上げる。
- ・ 活躍している卒業留学生の情報集約。
- ・ 留学生の日本語会話能力の向上。
- ・ コロナによる受け入れ状況の変化。

②今後の改善策

- ・ 国内外での評価を広めるため、更なる充実を図る。
- ・ 留学生対応に教職員全体で対応出来るように進める。また、外国人職員の採用も検討。
- ・ 優秀な留学生もいるので、日本国内での就労が出来るように働きかけていきたい。
- ・ 留学生会を通じ、助け合う事、日本で学ぶ事をもっと伝えていく。

③その他

- ・ 在留管理等は、法令に遵守し適切に行われている。留学生の教育および生活指導の一環として「留学生会」を定期的に行い、把握に努めている。
- ・ 留学生の受入れ等に関しては、適正に行われており、出入国在留管理局からも「適正校」として認定を受けている。
- ・ 中国や韓国の研修・講習会でも本校の講習は高い評価を得ている。
- ・ 留学生に対して、和洋パン教科書用の留学生対訳本作成により、授業内容の理解と円滑化に努めている。

総合平均値

3.5